

成果の説明書

(氏名) 丸山奈穂	(学部)地域政策学部
1 重要事項 ① 研究 <u>研究：データ収集と分析</u> コロナ禍における旅行者と比旅行者に対して 2020 年度との比較調査のためのデータ収集を実施した。合計で 1000 名のデータを収集した。 <u>分析手法の習得</u> 新たな分析手法を身に付けるため、IBM の統計ソフト SPSS Amos の研修を 2 コース（計 8 回）を修了した。 <u>学会</u> Asia Pacific Tourism Association の学会に観光のノーマル化に関する論文要旨を提出し、アクセプトされた。この要旨の執筆には上記の研修で得た分析方法を使った。7 月に香港で実施される大会で発表する予定である。 <u>査読</u> Journal of Sustainable Tourism の査読を行った。 <u>サバティカル</u> 2022 年から続けて、2023 年 7 月までサバティカルでテキサス A&M 大学に滞在し、論文執筆等を進めながら、他の研究者と意見交換をし、次の共同研究について確認をした。 ② 教育 <u>小グループによるディスカッション</u> 各授業において、個々の発言の機会を確保するために小グループによるディスカッションを毎授業行った。 <u>授業手法の活用</u> サバティカルにおいて学んだディスカッション型、実践型の授業の進め方を適用した。実際の観光地の写真、観光者の行動などの資料を積極的に取り入れ、学生が観光の理論を学びつつ、自分事として考えられるよう工夫した。特にコロナ禍の後で海外旅行経験がない学生が増えていること、逆に日本を訪れる外国人観光客は増加していることから、「国際観光」というものを旅行者、受け入れ側の両方として捉えることができるようデータの活用などの工夫をした。 <u>施設見学、学園祭への参加</u> コロナ禍で実施できていなかった施設見学や学園祭への参加を再開した。学園祭では売り上げ目標を立て、有効なプロモーション方法を考え実践することができた。また施設見学では事前と事後に振り返りを行うことで、学びの定着を図った。またこれらの活動を通して、ゼミ生同士（特に異なる学年）の交流ができた。これらの交流は学生の就職活動時に生かしたい。	
2 その他の事項 Asia Pacific Tourism Association Japan Representative	
3 次年度以降の計画・抱負 引き続き、サバティカルで学んだことを研究や教育に生かしていきたい。研究では	

インバウンド観光に関するアンケート調査をする。教育では、増加が続く国際観光について様々な方面から考えるように促したい。また参加型授業の実施方法について、おとなしい学生も発言しやすい方法を探っていきたい。